

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892200015		
法人名	有限会社茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころ鹿嶋館	ユニット名	ひまわり
所在地	〒311-2223 茨城県鹿嶋市林1020-3		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月27日	評価機関 決 済 日	平成27年8月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者一人ひとりとゆったり関わりながら、入居者が自分でできることはやっただき、得意としていることなどを把握し、生活の中でおのおのが役割を持ち生き生きと生活ができるよう支援しています。また広々としたデッキでは外気浴を楽しんだり、庭には家庭菜園を作り、野菜や草花を育て、収穫した野菜などはおやつとして食べたりおかずとして食卓に出したりしています。またおやつなども入居者同士と一緒に作って食べたりしています。入居者同士が助け合い笑顔のある生活空間を作り、地域との関わりを深めながら明るく楽しく元気に生活しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者を兼ねる代表者が「利用者は家族」という思いを基本として開設している事業所で、職員は「その人らしさを大切に」という理念を念頭に日々利用者の生活を支援している。</p> <p>毎食前には温かいタオルを配り、陶磁器製の食器を用いたり、自家菜園で収穫した食材を活用して職員手作りの食事を提供するなど、食事が楽しめるよう支援している。</p> <p>事業所は温暖な地域に南向きに建てられており、利用者は広いオープンテラスで外気浴を楽しんでいる。</p> <p>職員は利用者が地域との関わりを深めながら生活ができるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念に基づいたケアを目指して全職員が取り組んでいる。	「尊厳ある生活が、その人らしさを大切に笑顔でゆったりおくれるように、地域と共に暮らしていきます。」との地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を代表者と職員で話し合って作成している。 理念を玄関や事務室に掲示するとともに、職員ミーティングや朝の申し送り時に確認し、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の『うえる西サロン』へ参加したりしている。 また、定期的にボランティア（ハーモニカ、大正琴等）の方々と交流している。	利用者と職員は散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、季節の野菜等のお裾分けを頂いたりしているほか、地域の集会所で行う「ウェル西さろん」に参加し、踊りやゲームを一緒に楽しんでいる。 管理者は地域住民からの「認知症について」の相談にも応じるなど、良好な関係づくりに努めている。 ハーモニカや大正琴のボランティアを受け入れるなどして地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域のイベントへ参加することで、入居者の方たちと触れ合ってもらい理解を深める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出た意見を取り入れ業務の改善に取り組んでいる。	運営推進会議は家族等や市職員、市の地域福祉推進委員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民の代表等が参加し、2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事などの報告をしているほか、委員から「自動体外式除細動器（AED）の操作方法の習得」との意見が出され、メーカーによる機器の操作説明会の実施やDVDによる職員の自主学習を行ったことを会議で報告している。 会議に出た意見等は職員で検討し、サービスの質の向上に活かすとともに、記録に残している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡を取ってはいないが、運営推進会議に出席された担当職員等にホームの実情を報告したりして協力関係を築いている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、管理者は市の介護長寿課を随時訪問して、利用者の要介護更新認定の情報や介護保険等の問い合わせをするなどして、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、全職員が理解に努めている。	重要事項説明書に、やむを得ない場合を除き、身体拘束をしないケアの実践について明記している。 職員は身体拘束をしないケアの内部研修を受講し、身体拘束の弊害を理解するとともに、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアの実践に努めている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録、再検討記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者の虐待』についての勉強会を開催し、内容の理解と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	『権利擁護』についての勉強会を開催し、内容の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事細かに説明することを心掛け、利用者や家族に理解と納得を得られるようにしている。特に利用料金等に関しては時間をかけ説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は普段の生活の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議に参加された時に、意見や要望を聞き出せるようにしている。また、年2回書面にて意見・要望を汲み上げている。	管理者と職員は、利用者からは日々の関わりの中から、家族等からは来所時や電話等で意見や要望を聴いている。 年2回家族会を開催し、開催時に家族等へのアンケートを実施しているが、アンケート結果を家族等に報告するまでには至っていない。	家族等の意見や要望を広く汲みあげるために、無記名の家族アンケートの実施と、提出された意見や課題等を整理し、家族等に報告することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや申し送りの中で意見や提案を出してもらい話し合いをしている。また個人面談を行い、職員の意見・要望等を聞き出し仕事がしやすい環境作りに取り組んでいる。	管理者は月1回の職員ミーティングや毎日の申し送り時のほか個人面談時など、機会ある毎に職員から意見や要望を聞くように努めている。 職員の提案で、衛生面を考慮して利用者が使用している歯ブラシは、使用時のみ洗面所に置くよう変更した。 職員の要望による研修会への参加や希望休が自由に取得出来るよう配慮している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に希望休みや有給休暇を取得できるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。研修会には職員の希望や経験年数も加味しながら参加できるようにしている。 個々の目標作りや評価によるやりがい作りを実施予定。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。また経験に応じて必要と思われる研修・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ケアプラン等を基に積極的に関わり利用者を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話する中で、家族の介護に対する不安や思いを聞き出したり、家族側の立場として色々相談していただけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と会話する中で、家族が不安に思っている事を汲み取り、その改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のなつかしい歌を教えてもらい職員と一緒に歌ったり、時には家事を一緒にしたりしながら生活を共にしている。 畑作りや家事においても役割を持ってもらい、共に支えあう暮らしをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、家族と一緒に食事をしたり、レクリエーションを一緒に楽しんだり家族との絆を大切にしている。また家族とは家族交流会等で今後について話し合いができるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。本人が慣れ親しんだ店に買い物や外食に出掛けたりしている。	利用者の在宅当時から知人や友人が訪ねて来ており、職員は居室でゆっくり話せるよう、お茶などを出して接待し、これまでの関係が継続できるよう支援している。 利用者の要望で、買物等の外出時には喫茶店でコーヒーなどを飲んだり、パチンコ店に出かけるなどして、馴染みの場所へ出かける支援をしている。 利用者の入居前の生活歴をまとめて記録するまでには至っていない。	利用者の生活歴等を記載した、アセスメント表を作成することを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション・家事を通し、利用者同士が声を掛け合ったり、一緒に行うことで楽しんだりしている。また孤立しないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（長期入院・死亡等）しても、御見舞いにいたり、暑中見舞い、年賀状のやりとりをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話のなかから、希望や意向などを聞き出せるようにし、内容によっては随時職員間で話し合い、本人が望む『そのひとらしい生活』が送れるよう話し合っている。また必要に応じて、家族・本人を交えて話しが出来る場をもうけて、希望・意向などを聞きだしている。	職員は日々の暮らしの中で、利用者の希望や意向の把握に努めているほか、思いの把握が困難な利用者には、家族等からこれまでの生活歴を聴いたり、利用者の表情や仕草から思いを汲み取るように努め、新たに得た要望等は「支援記録」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にこれまでの生活歴などを聞き出し、なるべく今までの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事はしていただいている。また各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での気付き、本人・家族の意見や意向を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。介護認定の更新時や状態の著しい変化があった場合、または一定期間後にモニタリングを行い評価結果も参考にしながら介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望のほか、主治医の意見を参考にして職員で意見交換を行い、介護支援専門員が作成するとともに、家族等の来訪時に説明をして同意を得ている。毎月カンファレンスを実施し、3ヶ月毎にモニタリングを行い記録に残すとともに、短期目標を6ヶ月、長期目標を1年とし、1年毎に計画を見直している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録に残し、職員全体が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。その情報の中からその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菊花展や鹿島神宮参拝などに行き楽しんでいる。お花見・花火など、季節行事や夜間イベントなどを楽しめる機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	かかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているが、家族等の要望があればかかりつけ医への受診も職員が対応し、受診結果は電話で家族等に連絡している。 協力医療機関への毎月の定期受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連絡をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、状況に応じ職員間で対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催し、チームケアを取り組むよう努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、医療的処置が必要になった場合は、医療機関での対応となることを利用者家族等に説明し、書面にて同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアル(応急手当・急変時の初期対応)を基に勉強会を開催したりしている。また、体調が急変した時は管理者に連絡し、状況により直に駆けつけられる体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施(年2回)。実施後は反省点等を記録し、今後の訓練に活かすようにしている。区長さんを通し、地元消防団に協力をえられるようはたらきかけをしている。	夜間想定を含め年2回避難訓練を実施し、訓練での課題や反省点を話し合って記録に残してはいるが、避難に要した時間を記載するまでには至っておらず、運営推進会議を通じて呼びかけている、近隣住民の参加も得るまでには至っていない。 災害に備えて食料品や飲料水等を備蓄するとともに、賞味期限や数量を記載した備蓄品リストを整備して管理している。	運営推進会議を通じて、地域住民の避難訓練参加への協力依頼をするとともに、避難に要した時間を記録して次回の目標にすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が、職員間で共有できるよう、ミーティングで話し合い、プライバシーに配慮した対応をしている。入居者の希望により、自室ドア窓にプライベートカーテンを取り付け配慮している。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応に努めている。事業所は利用者の希望により、居室ドアの窓にカーテンを取り付けるなどして、利用者のプライバシーに配慮している。契約書等の個人情報に関する書類は、事務室の施錠ができる書棚に保管し、取り扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動または発言に注意しながら、入居者への声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせ、囲碁や塗り絵、編み物やカラオケ、買い物など、工夫した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て楽しんだり、時には職員と一緒に買い物に出かけ本人の好きな服を買ってきたりしている。また女性の入居者には外出時やボランティア来訪時、希望に合わせて化粧を行ったり、声掛けを行ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の用意をしたり、食器拭きをしてくださったりしている。またホーム菜園で採れた農作物と一緒に収穫しおやつや食材として食べたりもしている。また偏食の方には、特別に本人の食べやすい物を作り提供している。たまに本人や家族に嗜好を聞いて考慮した個別のメニューも作っている。	献立は職員が利用者の嗜好を考慮しながら作成し、食材の購入に利用者も時々一緒に出かけている。 職員は利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を摂りながら食事を楽しめるように支援している。 利用者の誕生日に、職員の手作りケーキを提供したり、外出時に回転寿司やお刺身、日本そばなどを楽しんでいる。 利用者は出来る範囲内で、食事の下ごしらえや下膳等の役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアができるように見守りや声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレに行かれた時はプライバシーを損ねないように、声掛けや見守りを行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、個人のリズムで出来るだけトイレで排泄が出来るように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多くしたり、食物繊維の多い食材を使ったりしている。また個別に軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴日以外でも体調や希望に沿った入浴が出来るよう支援している。本人に希望を聞き、一番湯や終り湯、足浴、入浴剤の使用などの工夫をしている。	入浴は基本的に一日おきとし、利用者の希望する時間帯に入浴が出来るよう支援するとともに、利用者の体調に応じて清拭や足浴などに変更している。 入浴を拒む利用者には、担当者や時間帯を変えて声かけ等を行い、無理のないように促している。 入浴剤を使用したり、菖蒲湯や柚子湯等で季節感を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また利用者の体調に合わせた休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合やリビングで寝ている時は和室や居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。また処方箋の変更や追加があった場合は、必ず全職員に変更連絡を徹底し、職員が入居者の服薬について正しく理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、畑仕事など役割を持ってもらい、生活に張り合いが持てるよう支援している。また、季節に沿った外出行事を楽しんだり、昔手作りした食材・食品（切り干し大根、梅干しなど）作りを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出掛けたり、天気の良い日は外食やドライブに出掛けたりしている。また散歩した時には近隣在住の方々との挨拶や会話を楽しんだりしている。	天気の良い日には、利用者と職員と一緒に散歩に出かけたり、ウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。 事業所は年間外出計画を立てて、鹿島神宮への初詣や鹿嶋城山公園への花見、潮来のコスモス見物、近隣農園の苺狩りやメロン狩りに出かけるなど、四季折々に楽しめるよう支援している。 利用者は敷地内の自家菜園で茄子や胡瓜、オクラ等を栽培して収穫を楽しむとともに、利用者の食卓を賑している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な方が多い為、必要なものや本人が希望するものは施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、個人で支払いができるよう支援している。ただし紛失の危険性を説明した上で、希望する利用者（家族同意）は個人で所持している。近くのお店や外出時の買い物時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に自由に電話できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾ったり、季節感のある小物なども置いている。また和室・ソファでゆっくりしながら談話しながら過ごしている。玄関・リビング・相談室等には入居者のご家族様の書いた絵画を飾ってあり落ち着いた雰囲気を演出している。天気が良い時はデッキに出て日光浴を楽しんでいる。	居間兼食堂は天窓などで十分に光が取り入れられ、明るい空間となっており、壁面には利用者と職員で制作したパッチワークの作品や貼り絵、折り紙作品、家族等より寄贈された絵画、ボランティアが描いた利用者の似顔絵が掲示されている。 居間兼食堂の一角に8畳の和室を設けており、利用者同士で会話を楽しんだり、お茶を飲んだりと寛げる場所になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンデッキが広いので、車椅子でも自由にデッキに出入りする事も出来、好きな時に外の空気を吸ったり気分転換をはかれる。和室、テーブル、ソファ、一人掛けソファを利用し、気の合った入居者同士、または一人になれるような空間作りを行っている。和室には趣のあるテーブルを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたイスや布団等を持ち込んで使用していただいている。また、使い慣れ親しんだ鏡台やタンス等も置いたりしている。	居室にはエアコンやベッド、整理箆筒、カーテン、加湿器を備え付けており、利用者は遺影やテレビ、箆筒、椅子、布団、家族の写真などを自由に持ち込み、居心地よく暮らせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分かるよう入口に大きな名前札を設置している。デッキ出入口に安全の為、ガラスがあることがわかるよう背丈に合わせた飾りテープを使用している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ鹿嶋館

作成日 平成27年8月17日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族等の意見や要望を広く汲みあげられていない事と、提出された意見や課題等が家族等に報告されていない。	家族等の意見や要望を広く汲みあげ家族に報告する。	無記名の家族アンケートを実施して、提出された意見や課題等を整理し、家族等に書面にて報告するようにする。	3ヶ月
2	20	利用者の生活履歴等のアセスメント表の内容が不十分である。	アセスメント表の内容を充実させる。	アセスメント表の見直しをして再アセスメントを行い内容を充実させる。	3ヶ月
3	35	避難訓練に地域住民が参加されていない。	地域住民が参加されての避難訓練を実施する。	運営推進会議等を通じて、地域住民の避難訓練への参加協力を依頼する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。